

SENKEN

2013年
(平成25年)

5月31日
金曜日

織研新聞社

発行所



100年後でなく10年後視野



川島蓉子所長（左から5人目）と7人の研究所メンバー。近未来のライフスタイルを発信していく

「100年後の遠い未来ではなく、10年後くらいの未来を視野に、私たちがこうしたいと考えるライフスタイルを描いていく」。伊藤忠ファッションシステムが4月に立ち上げたi f s未来研究所（未来研）のお披露目会が29日、東京ステーションホテルで行われた。

未来研は、伊藤忠ファッションシステムの川島蓉子さんを所長に7人のメンバーが参画。

「研究開発にも役立ち、プロジェクトを活発にするお手伝いをしてもらう」との目的で設立された。企業のブランドを強化する

伊藤忠F Sが未来研

プロジェクトを推進するほか、近未来に向けたライフスタイルを発信する考えだ。

参加メンバーは、経営コンサルタントの唐川靖弘氏、プロダクトデザイナーの酒井俊彦氏、建築家の田根剛氏、ジャーナリストの林信行氏、ファッションデザイナーの廣川玉枝さん、ピジュアルクリエーターの福井武氏、デザインエンジニアの渡邊康太郎氏。様々な企業のブランドディングを各分野のプロを集めたチームで手がけていく。

「未来の日用品プロジェクトをはじめ、銀行や商業施設

ブランド強化へプロ結集

のブランディングのプロジェクトが進行中で、13年度は「不便だけれど快適なもの」の周辺をテーマに掲げ、研究活動をスタートさせる。来年5月もしくは6月に展覧会を行う計画だ。ライフスタイルの発信については、展覧会や、映像、書籍、レクチャーといった形で実施する。

未来研の運営は伊藤忠ファッションシステムで、協力は伊藤忠商事。お披露目会に出席した岡藤正広伊藤忠商事社長は、「伊藤忠ファッションシステムが培ってきたノウハウ、資産、人材、人脈は未来研の活動に力になる。社会に役立つ活動をしてもらいたい」とあいさつした。